

終ま
ル絡て た寒薄支のな行に入ま大
戦しスの前中のくい給蘇いき博隊し空昭
をた信た線国をて夏さ州貨、多した襲和
迎が号めとで覚震服れへ車そかま。の20
え、をの後はええだて行でのらし東後年
まし、訓必無方通てなついき中後船た京に3月
練死線部信いがたたま国、でがの召
た。だにの隊兵まらの軍し江屋豊、連集
け覚モのとす行で服た南根山す隊さ
え、連し。つ、が。省のへぐにれ京

が時しにこは 一き畠家降にらてか
べく思ひます。戦争ではない決してつやくる
づきで、戦争は、決してつやくる
戦争について

小学で南畠小学校まで行き、子もす、校へ着くと足を洗つ。教室へ入つたもの。ズックを履いたけれど私は裸足でした。草刈りや田植えの勤務が当たり前の時でした。

か まか若係 なし工大で火 所は勤 同かい廠は、小
月焼せわいな爆 こ、場きす薬工で、務最 級らてへ、小学
前夷ん。い女く弾と人のな。を場のはが初 生一通南畠岡に
に弾 南が、 その子命がはりあり亡くで爆 工場かから、校を卒業した後
南が、 うもがが工場で爆 弾が聞 こえ、 5人位いた歩兵
に終戦の数 忘れられ うもがが工場で爆 工場で勤めました。南畠岡に
たたけり、 うもがが工場で爆 弾が聞 こえ、 4人に勤めました。裸足で歩兵

ときが が性話き得す
、戦伝たか続るる 戰
つ和そ後わちらけた間が 争
くづく守思まで苦銃つになわ
く思いなをのまへをとえ た
ます。受け受けたた苦労るう 飲食と
ば繼ち。女お働を感じ

行場に壕を掘りに行つたり、成増の方から三芳の藤久保に被服廠が疎開するというので行つたりしました。

送は聞いていません。上官から戦争が終わつたことを知られました。その後、中国で捕虜になりました。土間み寝泊まりしていました。当時は、治安が悪く、一人で出歩くことすらできませんでした。昭和21年5月に上海から船で佐世保に戻つた。

A color photograph of an elderly woman with dark, thinning hair. She is wearing a light-colored, possibly white or cream, button-down blouse. She is seated, facing slightly to her left. The background shows a window with patterned curtains featuring a red and green floral design. To the left of the window, a portion of a wooden cabinet or shelf is visible. The lighting is soft, suggesting an indoor setting.

出征する人たちを兵隊送りといつて、下田の現（錫杖権）まで、旗を持つて見送りました。家族の人は、鶴瀬の駅まで見送つていたようでした。

時は、怖かったです。
戦後の生活は？

平和の大切さ

～戦争体験を聞く～

大正13年生まれ(92歳)
・終戦を迎えた場所
北海道猿払飛行場

いつ入隊されましたか?

昭和19年に徴兵検査を受け、昭和19年12月1日千葉県柏の第124部隊へ入隊しました。

入隊後の生活は?

兵隊としての基本教育を終え、昭和20年3月8日の正午に隊を離れる事



を南畠の家族に電報で知らせました。

家族は、大宮駅で会えるだろうと考え、8日の11時頃から、駅で待つてくれていました。

ところが、隊では7日の夜に非常召集があり、そのまま秘密行動となってしまい、結局、家族と会うことはできませんでした。

その後、熊谷第6練習飛行隊へ配属。飛行機を修理するところでした。

4月に熊谷が2回もの空襲に遭い、今度は長野県の上田教育隊に配属されました。

しかし、上田でも空襲に遭い、5月に北海道の猿払飛行場へ転地教育に向かいました。猿払飛行場は林を切り開いて板を並べただけの滑走路ですし

何もかもが、配給で肥料も配給でした。それで、少しでも肥料をと思い、牛を飼い始めました。当時は、現在のような戦争のない平和で自由な世の中になるとは夢にも思いませんでした。戦争が終わつたことが何よりの幸せだとつくづく思います。皆さん、この平和な時代に生まれたことを幸せだと思います。

大正14年生まれ(91歳)
終戦を迎えた場所
中国 江南省 鄭州



「平和の大切さ」と「う」ことで戦争体験をされた方にお話を伺いました。紙面の都合上、お話の全てをご紹介することはできませんが、多くの貴重な話を聞き、改めて命の尊さ、平和の大切さ、ありがたさを実感しました。